

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室

第 145 回 刈込



先生：芝生の生理について説明したけれど理解出来たかしら・・・

生徒：植物は光合成で有機物の元になる炭水化物を作り、それを呼吸作用で酸素を使って生育に必要な有機物とエネルギーを作っていきます・・・

先生：そういうことね・・・でも寒地型（C3 植物）と暖地型（C4 植物）では若干システムは違うわ・・・例えば光合成で多くの有機物を作った場合、寒地型は単糖（フルクトース）という糖を、暖地型はデンプンをクラウンやランナーに貯蔵するわ・・・また寒地型は炭素を取り込むのにルビスコと言う酵素を使うけど、これが強い光の下では空気中の炭素をうまく取り込めなくなるのね・・・だから夏になると成長が弱くなる・・・その点暖地型の芝生は太陽が大好き・・・暑くなって、太陽光が当たれば当たるほど絶好調なのよ・・・

生徒：と言うことは日本も温暖化だからどんどん暖地型に変えないといけなくなるのでしょうか？・・・

先生：そうね・・・長期的にはそうなるかもしれないけど・・・太陽が大好きな暖地型は夏の高温はいいけど春とか秋の日が短かくて気温も上がらない季節はぱっとしないわ・・・

先生：そうか・・・寒地型は春と秋が絶好調・・・場所にもよるでしょうけど、夏さえうまくやり過ぎせば寒地型の方がいい季節は多いとも言えるんですね・・・やはり暑さに強いだけですべてが解決するわけではないですね・・・

先生：そういうこと・・・それぞれの性質や特徴を生かして管理し、総合的に最適な管理をする事が大事よ・・・

生徒：そういうことですね・・・

先生：暖地型の日本芝は本州ではフェアウェーやラフにたくさん使われているけど、一番の成長期は夏の2ヶ月ぐらい・・・東北や高原に行けば1ヶ月ぐらいしかない所もあるわね・・・

生徒：そう考えると万が一芝生にダメージが出てしまうと寒地型芝みたいに種蒔いたり出来ないから芝張るしか出来ないし、秋に張ったら根が下りる前に冬になっちゃうし・・・

先生：そうね・・・どんな物も100点満点な物はないわね・・・

生徒：そうするとやはり暖地型

の芝生には夏にたくさん肥料をあげないといけませんね・・・

先生：全くそのとおり・・・でも実際は刈込が大変だからとか言って夏に肥料を十分に撒かないケースも多いわね・・・

生徒：えっそれじゃ芝生が貯蔵養分も貯められないし、密度の高い良い芝にならないですね・・・

先生：その点では暖地型にはいいことがあって・・・夏の土壤温度が高いときは、土壤有機物が微生物に分解されて窒素などの肥料成分を放出するからちょうどいいとも言える・・・

生徒：なるほど・・・

先生：だから暖地型芝は有機肥料でも管理が出来ると言うのが理論上の話・・・

生徒：理論上の話・・・と言うからは現実はずっと違うということでしょうか？

先生：寒地型の芝生を有機肥料で管理するのは相当無理だけど、まあ暖地型の芝ならまあいけるかも程度の話・・・しかし土壤微生物の活動がどの程度上がるかは、土壤温度、pH、土壤中の酸素、水分量などなど・・・いろいろなファクターで変わるわ・・・もちろんその前にどういうタイプの有機物なのかも重要ね・・・しかも冷夏だったらアウト・・・それに有機物の持つ窒素量は少ないから窒素の『量』をちゃんと考えないと・・・

生徒：やっぱり有機物は管理しにくいですね・・・

先生：それに不足分の養分を普通の肥料で補おうとすると、あげた肥料成分が微生物の餌にもなってますます肥料の分解が上がり効果が短くなる・・・

生徒：あ～なんかまた頭が痛くなってきました・・・

先生：さて芝生の管理で一番大事な物は何かしら？

生徒：突然質問ですか！・・・肥料？農薬？・・・散水？？

先生：刈込よ！！・・・刈込の頻度は高ければ高いほど良い・・・すべての管理計画は刈込の計画から始まると言っていいわ・・・刈り込めるから肥料も撒ける・・・肥料も撒けるから芝生の密度が上がり光合成する力も上がる・・・たくさん光合成すればたくさん貯蔵養分が蓄えられる・・・病気や雑草、虫害も少なくなる！！・・・刈り込めないから肥料を撒かない・・・いったいどうなるかしら？・・・よく考えて！！

生徒：肥料をあげてひたすら刈り込む！が基本！

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

